朝刊 2021/11/04(木)

コザ、29年ぶり栄冠

県高校新人大会

県高校新人体育大会は3日、各地で3競技を行った。ハンドボールは男女決勝までを行い、女子はコザが浦添に26－19で勝ち、29年ぶり4度目の頂点に立った。男子は興南が那覇西に36－24で逆転勝ちした。優勝は15年連続35度目。

なぎなたの団体は2勝1敗で3校が並び、勝者数で知念（嘉手納愛望、宮城心音、新垣倫、武内香音、長嶺千穂）が沖縄尚学と首里を上回って5年ぶり23度目の優勝を果たした。演技は平安名はな・泉水ほのか組（首里）が制し、泉水は個人試合も優勝して2冠を達成した。

卓球の団体は男子が宮古、女子は普天間が頂点。シングルスの女子は田畑明希（首里東）が、男子は牧志侑武（宮古）が制した。

4日は宜野座CCでゴルフを行う。（卓球の記録は後日掲載します）

女子決勝　コザ―浦添　後半、コザの平良心愛が25点目のシュートを決める＝具志頭社会体育館（小宮健撮影）

ハンドボール（具志頭社会体育館）

【男子】
▽3位決定戦
北中城 38－25 昭薬付
▽決勝
興南 36（24－10、12－14）24 那覇西

【女子】
▽3位決定戦
那覇西 25－14 首里
▽決勝
コザ 26（10－8、16－11）19 浦添

王者興南 V15

後半攻勢で逆転

男子興南が鮮やかな逆転勝ちで15連覇を飾った。前半を12－14で折り返したものの、後半開始3分で追いつき、さらに4連続得点で突き放した。新しく監督に就任した照屋喜隆監督は「少しずつチームも上がってきた。生徒たちが頑張った」とねぎらった。

逆転した後半は那覇西が前半から守備体系を変更してきたものの、「試合前に確認していた」（中島大智主将）と焦りはなかった。

後半だけで24点と、前半と比べて得点は倍。中島が負傷退場しても、島仲貞尭や宜寿次政伍を軸に守備を立て直し、1年生GK石田龍ノ介の好セーブも光った。

1学年上の代からメンバー入りしたのは中島だけ。コロナ禍もあって新チームはまだ始動したばかりで、伸びしろはたくさんある。チーム最多の7得点した宜寿次政希は自信をつけた様子で、「これからも点を取ってチームを盛り上げたい」と拳を握った。

男子決勝　興南―那覇西　前半、興南の宜寿次政希が先制のシュートを決める

男子優勝の興南

興南の黒島氏 総監督に就任

監督として全国総体を6度制した興南の黒島宣昭さん(60)が、今夏の全国総体を最後に監督を退任した。総監督に就任し、後任には同校OBで10年以上コーチを務めてきた照屋喜隆新監督(42)が就いた。「長年私を助けてくれた。背中を見て伝わっているものもあると思う」とほほ笑んだ。

大学卒業後の1983年に監督に就き、選抜、総体、国体を制す〝全国3冠〟を2度達成した名将。日本代表や日本リーグで活躍する選手も数多く輩出した。監督生活を振り返り、「選手に恵まれ、大変勉強になった」と感謝した。

黒島宣昭さん

堅い守りで終始リード

失点19 目標達成

女子決勝はコザが1度もリードを許さず、浦添を26－19で制して29年ぶりの栄冠に輝いた。目標だった「20失点以内」に抑えることはできたが、「30得点以上」は達成できず。選手たちに「全国を狙える」と期待を掛ける佐平牧生監督は「練習不足もあるが、積極性が足りなかった。もっと自信を持ってプレーさせてあげたい」と話した。

守備体系は横一線。カットインさせず、6㍍ライン付近でほとんどシュートを打たせなかった。身長168㌢の名嘉陽菜と宮城愛澄が「相手ポストには絶対にやられたらだめ」（名嘉）と徹底マーク。1年生の宮城は「いつも以上に頑張って、絶対に中に入れないようにした」とうなずいた。

一方、攻撃面では課題も出た。持ち味にする堅守速攻から得点を重ねたものの、佐平監督は「パスカットを恐れていたのか、攻め切れなかった」と語った。西田こころ主将は「いい内容で勝たないと全国は取れない」と表情を引き締め、九州派遣が掛かる12月の県予選を見据えた。（我喜屋あかね）

女子優勝のコザ

© 2016 Okinawa Times Inc.